

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説理的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム					
-------------	--	--	--	--	--

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
11037	アメリカ文学史	アメリカ文学のキャンノンと呼ばれる作家について概説する講義を通して、アメリカ文学の基礎的知識を習得することができる。	2~4		*	◎	○	
11038	イギリス文学史A	人間の心の内奥の動きや無意識に目を向けて、実験的な手法を企てる、19世紀末から20世紀初頭のモダニズム期にかけてのイギリス小説の展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向をふまえながら、学んでゆく。その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4		*	○	◎	○
11039	イギリス文学史B	ヴィクトリア朝のイギリス小説の多岐にわたるその展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向、あるいは、作家のありようなどとの相関をふまえながら、学んでゆく。その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4		*	○	◎	○
11040	英語学概説A	英語学の研究分野一般についての理解を深める。	2~4		*		◎	◎
11041	英語学概説B	英語学の研究分野一般についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。	2~4		*		◎	◎
42101	イギリス文学特殊講義A	シェイクスピアの後期の悲劇や問題劇、並びに、ジェイムズ朝の劇作家の作品について、社会や政治の状況、家庭観、人の主体構成のあり方といった問題を絡めて、考えてゆく。その時代の社会や文化の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題としてシェイクスピアらの作品を読み通すことで、イギリスの戯曲にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4		*	○	◎	○
42102	イギリス文学特殊講義B	シェイクスピアが劇作家としての自らのあり方を確立していった16世紀末から17世紀初頭にかけてのシェイクスピアと彼の同時代の劇作家の作品について、社会や政治の状況、家庭観、人の主体構成のあり方といった問題を絡めて、考えてゆく。その時代の社会や文化の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題としてシェイクスピアらの作品を読み通すことで、イギリスの戯曲にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4		*	○	◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
---	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
42103	イギリス近代文学研究A	成熟した市民社会を背景にして、18世紀に興ってくるイギリス小説その展開を、当時の社会状況や思想・思潮の動向、あるいは、作家のありようなどの相関をふまえて、学んでゆく。 その時代の文学の流れと時代の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題として長めの作品を読み通すことで、イギリスの小説にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*		○	◎	○
42104	イギリス近代文学研究B	シェイクスピアが劇作家としての自らのあり方を確立していた16世紀末から17世紀初頭にかけてのシェイクスピアと彼の同時代の劇作家の作品について、社会や政治の状況、家庭観、人の主体構成のあり方といった問題を絡めて、考えてゆく。 その時代の社会や文化の動向について、基本的な理解を確立する。 取り上げられる作家の作品の原文での抜粋に触れることによって、英文の読解力を増進させる。 レポートの課題としてシェイクスピアらの作品を読み通すことで、イギリスの戯曲にじかに親しんでゆく機会を持つ。	2~4	*		○	◎	○
42105	英語圏文学論A	英語圏文学・文化を形成している様々なトピックについて概観する講義を通して、基礎的な知識を習得し、アプローチの仕方を身につけることができる。	2~4	*		◎	○	
42106	英語圏文学論B	英語圏文学・文化を形成している様々なトピックについて概観する講義を通して、基礎的な知識を習得し、アプローチの仕方を身につけることができる。	2~4	*		◎	○	
42107	英語圏女性作家論A	英語圏の女性作家に特徴的な階級・ジェンダー・セクシュアリティなどが交差するテーマへの分析視角についての基礎的な知識を習得することができる。	2~4	*		○	◎	
42108	英語圏女性作家論B	英語圏の女性作家のうち、黒人女性作家や日系女性作家など他の人種・エスニシティが同時に問題となる作家についての基礎的な知識を習得することができる。	2~4	*		○	◎	
42109	北米文化論	英語圏文学・文化の歴史的成立過程をジェンダー・階級・人種の視点から考察し、現代に通ずる課題を読み解いていけるようにする。	2~4	*		◎	○	
42110	英米言語文化概説	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*		○	◎	○
42111	英米文化交流史研究	・イギリス内外の政治外交史について、広く理解できる。 ・自らの関心を基に、独自に調査に取り組むことができる。	2~4	*		○	◎	
42112	英米比較文化特殊講義	・イギリス内外の政治外交史について、広く理解できる。 ・自らの関心を基に、独自に調査に取り組むことができる。	2~4	*		○	◎	
42113	イギリス文学概説A	・18世紀までのイギリス文学の歴史が分かるようになる。 ・様々な英語に触れ、現代語以外の英語に馴染める。	2	*		○	◎	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系的骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
42114	イギリス文学概説B	・19世紀以降のイギリス文学の歴史が分かるようになる。 ・様々な英語に触れ、現代語以外の英語に馴染める。	2		*	○		◎	○	
42115	英米文化研究A	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*		○	◎	○		
42116	英米文化研究B	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。	2~4	*		○	◎	○		
42117	英語圏広域文化研究A	・イギリス社会に関する広い知識を獲得することができる。	2~4	*		○		◎		
42118	英語圏広域文化研究B	・イギリス社会に関する広い知識を獲得することができる。	2~4	*		○		◎		
42119	アメリカ環境文学研究	・アメリカの環境文学に対する理解が深まる。 ・英文を精読する力がつく。	2~4	*		◎	○	◎	○	
42120	アメリカ芸術文化研究	・アメリカの芸術や、文化現象に関する基本的な理解ができる。 ・英文を精読する力がつく。	2~4	*		◎	○	◎	○	
42121	翻訳研究	・翻訳とはそもそもどのような行為を指すか、理解できる。 ・英文を精読する力がつく。 ・母語に対する理解が深まる。	2~4	*		◎	○	◎	○	
42122	英語学研究法A	英語学の各領域の研究法について理解を深める。	2~4	*		◎			◎	
42123	英語学研究法B	英語学の各領域の研究法について理解を深め、自らの関心領域を特定する。	2~4	*		◎			◎	
42124	英語学総論A	英語学の各領域に関する総合的な知識を獲得する。	2~4	*					◎	◎
42125	英語学総論B	英語学の各領域に関する総合的な知識を獲得すし、自らの関心領域を特定する。	2~4	*					◎	◎
42126	英語学講義A	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*		◎		△	○	
42127	英語学講義B	英語学における基礎知識を身につける。	2~4	*		◎		△	○	
42128	英文法講義A	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*		◎		△	○	
42129	英文法講義B	英文法に関する先行研究からの洞察を踏まえて、英文法の基本的概念の理解を深め、英語力、文法力の向上を目指す。	2~4	*		◎		△	○	
42130	英語学基礎理論序説A	英語学における基本的な理論を理解し、知識を見につける。	2~4	*		◎		△	○	
42131	英語学基礎理論序説B	英語学における基本的な理論を理解し、知識を見につける。	2~4	*		◎		△	○	
42132	イギリス古典詩演習	・スペンサーやミルトンといったイギリスの古典詩をじっくり読んでゆく。 ・詩人の生きた時代について学んで、詩人の生涯と作品の内容との深いつながりを考察する。 ・英詩のかなり複雑な構文と象徴性の高い文体を、深く正確に読み取る力をつける。 ・英語の読解力を総合的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。	2~4	*		○		○	○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説理的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	前期	後期					
42133	イギリス現代詩演習	19世紀末から20世紀半ばにかけて活躍したWilliam Butler Yeatsの代表的な詩を読んでゆく。 強烈な幻視と厳しい現実認識、抑えがたい情熱と辛辣なアイロニーを併せ持ったイェイツの独特な詩的世界を賞味して、現代詩の意義を考える。 英詩のかなり複雑な構文と象徴性の高い文体を、深く正確に読み取る力をつける。 英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。	2~4		*	○	○	○		◎
42134	イギリス演劇演習A	シェイクスピアの悲劇作品を講読形式で読んでゆく。 シェイクスピアの英語に慣れ親しむことで、英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。 作品の中に表わされた作者の人間観や、当時の社会的規範や文化的状況、とりわけ近代における家族やジェンダーといった問題も併せて考察し見識を深める。	2~4	*		○	○	○		◎
42135	イギリス演劇演習B	シェイクスピアの喜劇作品を講読形式で読んでゆく。 シェイクスピアの英語に慣れ親しむことで、英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。 作品の中に表わされた作者の人間観や、当時の社会的規範や文化的状況、とりわけ近代における家族やジェンダーといった問題も併せて考察し見識を深める。	2~4	*		○	○	○		◎
42136	イギリス近代詩演習A	イギリス・ロマン派第一世代するワーズワースとコウルリッジの詩を読んでゆく。 英詩のかなり複雑な構文と象徴性の高い文体を、深く正確に読み取る力をつける。 英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。	2~4	*		○	○	○		◎
42137	イギリス近代詩演習B	イギリス・ロマン派・第二世代を代表する詩人シェリーとキーツの抒情詩などを読んでゆく。 英詩のかなり複雑な構文と象徴性の高い文体を、深く正確に読み取る力をつける。 英語の読解力を総体的に高めると同時に、論理的な思考力を養う。	2~4	*		○	○	○		◎
42138	英米言語文化演習	・英語圏の言語文化に触れ、理解を深める。 ・イギリス内外の歴史について、広く理解できる。	2~4	*		○	◎	○		
42139	英米文化交流史演習		2~4	*		○		◎		
42140	英米比較文化演習	・イギリスと世界の比較について、自ら研究できる。	2~4	*		○		◎		
42141	イギリス小説演習A	・イギリス文学を論じる観点が分かる。 ・英文を文法的に正確に解釈する力がつく。	3	*		◎	○	◎	○	
42142	イギリス小説演習B	・イギリス文学を論じる観点が分かる。 ・英文を文法的に正確に解釈する力がつく。	4	*		◎	○	◎	○	
42143	英米文化文献講読A	・英語の文献を精読し、その言語文化に対する理解を深める。	2~4	*		○	◎	◎	○	◎
42144	英米文化文献講読B	・英語の文献を精読し、その言語文化に対する理解を深める。	2~4	*		○	◎	◎	○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。 外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。 複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。 ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。 原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期					
42145	英語圏文学演習A	英語圏の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ解読していく能力を習得できる。	2~4	*					○	◎
42146	英語圏文学演習B	英語圏の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ解読していく能力を習得できる。	2~4		*				○	◎
42147	アメリカ文学演習A	アメリカ文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ、解読していく能力を習得できる。	2~4	*					○	◎
42148	アメリカ文学演習B	アメリカ文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ、解読していく能力を習得できる。	2~4		*				○	◎
42149	英語圏女性文学演習A	英語圏女性作家の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ、解読していく能力を習得できる。	2~4	*					○	◎
42150	英語圏女性文学演習B	英語圏女性作家の文学テキストを精読しながら、みずからテーマを見つけ、解読していく能力を習得できる。	2~4		*				○	◎
42151	アメリカ環境文学演習	・アメリカの環境文学に対する理解が深まる。 ・英文を精読する力がつく。	2~4		*	◎	○	◎	○	
42152	アメリカ芸術文化演習	・アメリカの芸術や、文化現象に関する基本的な理解ができる。 ・英文を精読する力がつく。	2~4		*	◎	○	◎	○	
42153	翻訳研究演習	・翻訳とはそもそもどのような行為を指すか、理解できる。 ・英文を精読する力がつく。	2~4		*	◎	○	◎	○	
42154	英語学理論演習A	英語学の各理論についての理解を深める。	2~4	*		◎			◎	
42155	英語学理論演習B	英語学の各理論についての理解を深め、自らの関心領域を特定する。	2~4		*	◎			◎	
42156	英語学文献講読A	英語学の文献を読み、論点を的確にすばやく理解する。	2~4	*					◎	◎
42157	英語学文献講読B	英語学の文献を読み、論点を的確にすばやく理解する能力を身につけ、関心領域を特定する。	2~4		*				◎	◎
42158	英文法研究A	英文法に関する総合的な知識とし思考法を獲得する。	2~4	*		◎			◎	
42159	英文法研究B	英文法に関する総合的な知識とし思考法を獲得し、自らの関心領域を特定する。	2~4		*	◎			◎	
42160	英語学理論研究A	英語学における基本的な理論や研究について理解し、英語に関する知識を深める。	2~4		*	◎		△	○	△
42161	英語学理論研究B	英語学における基本的な理論や研究について理解し、英語に関する知識を深める。	2~4	*		◎		△	○	△
42162	英語認知論A	認知言語学の考え方を学び、英語の理解に役立てる。	2~4		*	◎		△	○	△
42163	英語認知論B	認知言語学の考え方を学び、英語の理解に役立てる。	2~4	*		◎		△	○	△
42164	英語学基礎演習A	・英語論文を精読する力を身につける。 ・言語(特に英語)に対する基礎的な洞察力・分析力を身につける。	2~4		*	◎		△	○	△
42165	英語学基礎演習B	・英語論文を精読する力を身につける。 ・言語(特に英語)に対する基礎的な洞察力・分析力を身につける。	2~4	*		◎		△	○	△
42166	英文法基礎演習A	・英文法の基礎知識を身につける。	2~4	*		◎			○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説理的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	--

<p>【学類のCP】 人文学類の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>ロトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>
--	--

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	◎	○	△
42167	英文法基礎演習B	テキストの読解や英語音声の観察を通じて、英語という言語を文法的に捉える能力を養う。	2~4	*		◎		
42168	英語学研究A	・英語学のアプローチの仕方をも身につける。	2~4	*		◎		
42169	英語学研究B	テキストや音声の観察を通じて、「英語学」の上で話題となる諸問題について理解を深め、学校文法を超えた問題意識を養う。	2~4	*		◎		
42170	英語学演習A	・英語学の基本的知識を身につけ、理解を深める。	2~4	*		◎		
42171	英語学演習B	テキストや音声の観察を通じて、「英語学」の上で話題となる諸問題を発見する能力を養い、学校文法を超えた言語知識を獲得する。	2~4	*		◎		
42172	英語表現法	・英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。	2~4	*		◎	○	
42173	英語演習	・英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。	2~4	*		◎	○	
42174	英語コミュニケーション	・英語表現の基礎知識を理解し、適切な表現を身につける。	2~4	*		◎	○	
42175	実用英文法A	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4	*		◎	○	
42176	実用英文法B	実用的な観点から英文法を見直し、用法に見られる論理性を包括的に理解する。	2~4	*		◎	○	
42177	アカデミック・ライティングA	自らの考察を英語で論理的に表現する方法を習得する。	2~4	*		◎	○	
42178	アカデミック・ライティングB	自らの考察を英語で論理的に表現する方法を習得する。	2~4	*		◎	○	
42179	クリエイティブ・ライティングA	英語そのものに内在する論理を理解して、その論理に基づき、自由に表現活動を行う能力を養う。	2~4	*		◎	○	
42180	クリエイティブ・ライティングB	英語そのものに内在する論理を理解して、その論理に基づき、自由に表現活動を行う能力を養う。	2~4	*		◎	○	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*		◎	○	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようにする。	4	*		◎	○	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学の学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4	*		◎	○	◎
11001	人文学序説I	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。	1	*		○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (英語学英米文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の言語・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

専門分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	前期	後期					
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	○				
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1		*					
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*	○			○	
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*		◎	◎	○	○
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*			◎	◎	○	○